

理学系研究科男女共同参画アンケート（博士研究員対象）

理学系研究科では2002年4月15日に男女共同参画ワーキンググループが発足し、2006年度からは男女共同参画委員会及び男女共同参画室として体制が整備され、これまでに、パネルディスカッション・キャリアガイダンス・ハラスメント講習会の開催や、アンケートの実施等、さまざまな活動を行ってきました。そして、2007年3月には男女共同参画基本計画の制定が実現しました。

このような経緯の下、本研究科における男女共同参画のいっそうの推進と問題点の改善に資するため、アンケートによる意識調査を行っています。その一環として、今回は博士研究員の皆様を対象を絞ってアンケート調査を実施することになりました。これは、前回、特に博士研究員のアンケート回収率が低かったことを補うためです。

回答は紙媒体かweb上のいずれか一方でしていただくこととなりますが、集計作業の簡便化のためできる限りwebをご利用いただきたく、お願いいたします。Web利用の場合はhttp://www.s.u-tokyo.ac.jp/gai/sankaku/sankaku_21enq.html、紙媒体の場合はWeb利用で用いているアンケートフォームを印刷のうえ各学科事務室にご提出ください。Web、紙媒体とも締め切りは3/15となっておりますので、よろしくご協力のほど、お願いいたします。

なお、本回答は匿名調査であり、統計的処理をして男女共同参画の目的のためだけに使用します。個人が特定されるおそれがある設問には回答されなくても結構です。

理学系研究科男女共同参画委員長
黒田 真也

アンケート項目

A) ご自身の情報

- 1) 性別： 女性 男性
- 2) 年齢： <25 26-30 31-35 36-40 41-45
 46-50 51-55 56-60 61<
- 3) 任期： 1年以下 2年 3年 4年以上
- 職名： 学振特別研究員(PD) 特任研究員
- 4) 雇用形態： 常勤 短時間勤務有期雇用 派遣

現在の職場環境：所属研究室の実情についてお答え下さい。

- 女性が圧倒的に多い 女性がやや多い 男女同程度
- 男性がやや多い 男性が圧倒的に多い
- 5) 所属先の男女比について、
- 現在のままで良い もっと女性を増やすべきである
- もっと男性を増やすべきである 男女比を問題にする必要はない

- 6) 現在の職場環境において、男女比がアンバランスであることによって問題が生じていればご指摘下さい。

- 7) 育児休業・介護休業について

- 必要とあらば遠慮なく取れる（と思う） 申請すれば取れるが遠慮がちである
 申請には困難を伴う まったく望めない

- B) 男女共同参画委員会について

- 1) 存在も活動内容も知っている 存在は知っているが活動内容は知らない
 存在も知らなかった
- 2) 男女共同参画委員会に対するご意見を自由にお書き下さい。

- C) 2007年3月に制定した理学系研究科男女共同参画基本計画について

- 内容まで知っている 存在は知っているが内容は知らない
 存在も知らなかった

知らないとお答えの方は、<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/gai/sankaku/kihonkeikaku.html>にある理学系研究科男女共同参画基本計画（以下、基本計画）をご覧のうえ、以下の項目にお答えください。

D) 基本計画では、教員の女性比率の倍増をできるだけ早期に実現するとしていますが、この点に関してあなたのご意見をお聞かせください（複数選択可）。

- a. 自然増に期待すべきことで、特別な施策は実行すべきでない
- b. 既存ポストの人事の際に、何らかの女性優遇策を導入して推進すべきである
- c. 女性限定または優先のポストの新設により推進すべきである
- d. その他（以下に具体的にお書き下さい）

E) Dでbとお答えの方、どのような優遇策をとるべきとお考えか、以下にお書き下さい。

F) Dでcとお答えの方、財源をどこに求めるべきか、お聞かせください。

- a. 全学等の理学系外からの特定財源
- b. 理学系外からの財源獲得を優先すべきであるが、困難な場合は理学系内の財源を投入
- c. 始めから理学系内の財源を投入
- d. その他（以下に具体的にお書き下さい）

G) Dでcとお答えの方、新設すべきポストの職位、人数等についてご意見をお聞かせ下さい。

H) 基本方針には女性研究者の増加を図ることも明記されていますが、そのための具体策として優先して実行されるべきものを以下からお選び下さい（複数回答可）。

- a. 女子学生限定の奨学金
- b. 女性研究者限定のフェローシップ
- c. 出産・育児経験者限定のフェローシップ
- d. その他（以下に具体的にお書き下さい）

I) 基本計画資料にあるように、女子学生・女子大学院生の比率は理学部・理学系の中でも学科・専攻により大きく異なっています。比率の低い分野への女子の進入学を促進するための何らかの方策を採るべきとお考えですか。

- Yes No

Yesの場合は具体的にどのような方策が考えられるかお書き下さい。

J) 理学系研究科の建物・設備について

- 1) 男女共同参画の観点から不十分である点、問題点があれば具体的にご指摘下さい。
(例：トイレ、更衣室、休憩室、エレベーター等)

- 2) それ以外の観点から不十分である点、問題点があれば具体的にご指摘下さい。
(例：バリアフリー化、耐震化等)

K) 建物・設備以外のソフト面（警備等）に改善すべき点があれば、具体的にご指摘下さい。

L) 学内全体について、男女共同参画の観点から改善すべき点があれば、具体的にご指摘下さい。

ご協力ありがとうございました